地域課題の解決に向けた取組

森林整備の効率化・省力化と林業の普及に向けて

網走南部森林管理署

【はじめに】

網走南部森林管理署は、オホーツク総合振興局管内の南東部、東側は知床半島、南側は阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖に接する７市町にまたがる地域の国有林約 13.6 万haを管理しています。

管内国有林には、知床国立公園、阿寒摩周国立公園、網走国定公園があり、羅臼岳、斜里岳、藻琴山、小清水原生花園、神の子池、津別峠、美幌峠、知床峠などの風光明媚な観光地も数多くあります。また、知床半島地域は、世界自然遺産にも登録されています。

【地域の課題】

網走東部流域では民有林・国有林ともに本格的な利用期を迎えた人工林が数多く存在しており、今後再造林が必要な箇所も増加します。しかし、林業の担い手（特に造林）の確保は困難で、このままでは再造林実施への影響が懸念されます。

また、地域の民有林では、適切な森林管理の実現に向け、森林経営管理制度（新たな森林管理システム）の本格実施を進めていますが、市や町には林業の専門知識を有する職員が少ないという現状が地域の課題となっています。

【解決に向けた取組】

林業の担い手不足の対策として、森林整備での効率化・省力化は急務です。下刈を乗車型自走式刈払機やリモコン式刈払機で行い効率化を進める、コンテナ大苗を植栽することで下刈の回数を減らすなどの試行のほか、生長量や功程調査も行い、現地に最もあった効率的な方法を検討しています。

また、植栽時の苗木運搬は作業員の高齢化が進む中、負担となっています。ドローン運搬と人力運搬との比較を行い、作業の省力化・軽労化についても検討しています。

検討・調査の経過は、オホーツク総合振興局や地元自治体などの関係機関へ情報提供しています。

リモコン式刈払機

【今後に向けて】

今後は、これまでの功程調査を継続しながら、更なる下刈の省力化に向け、コンテナ苗の大苗の比較プロット、リモコン式草刈機による刈払箇所の生長量調査等を行っていきます。また、市や町の林業担当職員へのサポート目的とした勉強会などを、オホーツク総合振興局東部森林室と連携して計画しています。

最後に、当署では森林環境教育チーム「もりのめ」を立ち上げ、子供から大人まで様々な世代に森林・林業に興味を持ってもらえるような取組を進めています。この取組が、林業の担い手不足解消に少しでもつながればと考えています。

「もりのめ」振興局での勉強会